

公立大学法人金沢美術工芸大学 令和6年度業務実績報告書 論点整理表

金沢市公立大学法人評価委員会

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標） (2) 教育の実施体制等に関する目標

中期目標	教員の資質能力の向上及び教育環境・学習環境の整備に努めるとともに、キャンパス移転を踏まえた教育組織の改編・改革を行う。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号
(ア) キャンパス移転に伴い、教務システムのオンライン化、大規模な共通工房の開設、憩いの場としての学生共用スペースの充実等、教育環境・学習環境の整備に努め、必要に応じて更新・向上を図る。 〔質問・意見等〕 なぜ評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR6年度に拡充した部分など)を具体的に説明してほしい。 共通工房のルール作成・周知・研修などはR5実績報告書にも記載があったが、令和6年度の新たな取組を説明してほしい。 ○2、3番目の記載内容と年度計画目標の関連を説明してほしい。	(ア) 教育環境・学習環境の充実のため、学生が専攻等を越えて自由に活用できる「共通工房」など、新キャンパスにおける教育研究設備の整備に努め、必要に応じて更新・向上を図る。	○新キャンパスの共通工房については、技術専門員を中心に、オブザーバー教員の協力も得ながら整備に取り組んだ。使用にあたってのルールを明文化したガイドブック（試案）の作成・検討、学生への周知方法の整備、教職員・学生への研修などを行った。特に、7月11日には教職員を対象とした共通工房を中心とした安全教育のFD研修を行い、今後の学生指導の充実を図った。 ○アートコモンズは外部の研究発表等にも活用されており、学生は身近で学ぶことのできる機会が拡大した。10月2日～6日 Cygamesによる背景美術展、11月10日～18日 凸版印刷によるGRAPHIC TRIAL2024などが開催された。 ○キャンパス設備は大学間交流の場としても活用し、5月24日～31日、全国の8大学による作品展「漆芸の未来を拓く 大学交流2024」、8月1日～5日、国公立の芸術系大学4校で染織を専攻する学生の作品展「つながる糸ひろがる布」が開催された。  〔次頁へ〕	IV		15-1 15-2 15-3 15-4 15-5 15-6 15-7 15-8 15-9

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標） （2）教育の実施体制等に関する目標	
--	--

中期目標	教員の資質能力の向上及び教育環境・学習環境の整備に努めるとともに、キャンパス移転を踏まえた教育組織の改編・改革を行う。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号
〔回答〕 ※前頁より 新キャンパスの共通工房については、実際に通年での運用を初めて行ったことを踏まえ、技術専門員を中心に、オブザーバー教員の協力も得ながら整備に取り組んだ。使用にあたってのルールを明文化したガイドブック（試案）の作成・検討、学生への周知方法の整備、教職員・学生への研修などを行った。 特に、利用状況に合わせて急遽、7月11日に教職員を対象とした共通工房を中心とした安全教育のFD研修を追加で実施し、今後の学生指導の充実を図った。 さらに、安全性を踏まえた利便性向上のために各工房に危険度に合わせた表示を行ったほか、レイアウトを改めた。共通工房のわかりやすいパンフレットを新たに作成した。 キャンパス設備は全専攻の学生の展示発表、授業での講評会等で活用されているが、さらに外部の研究発表等、大学間交流の場としても活用した。これらの学外者の利用を可能にするためにルールを整備するとともに、学内外にとってわかりやすい表示を行うために必要な備品を揃えた。 上記の結果、当初の想定以上に新キャンパスの教育研究設備を活用してもらうことができた。					

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標） (3) 学生への支援に関する目標
--

中期目標	多様化する学生のニーズに対応するため、学生一人一人に寄り添った柔軟できめ細やかな学習支援、生活支援、進路支援等を推進する。
-------------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号
(7) 学生のメンタルヘルス、合理的配慮等について、全学的な啓発・相談・支援体制を検証し、さらなる活用を進める。 【質問・意見等】 なぜ評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR6年度に拡充した部分など)を具体的に説明してほしい。 ○3番目の項目は令和7年度の業務実績報告で報告する内容ではないか。	(4) 大学生活全般に関する相談について、学生相談室での対応を強化し、学生の相談に積極的に応じる。	○学生相談室での大学生活全般に関する延べ相談件数は381件、合理的配慮3件であった。 ○学生相談室だけでなく、事務局窓口でも担当職員が幅広く相談に対応している。また、全科・専攻から1名ずつ教員が学修支援アドバイザーを務め、年4回学生相談室会議を開催し各科や専攻特有の課題を共有しながら解決策を探る体制をとった。 ○7年度から予算を確保し、新たにハラスメント相談やメンタルヘルス、健康相談に関する相談を受け付ける外部窓口を設置し、夜間電話対応や24時間のWeb対応など相談に積極的に応じる体制を強化した。	IV		33
		↓【次頁へ】			

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (3) 学生への支援に関する目標

中期目標

多様化する学生のニーズに対応するため、学生一人一人に寄り添った柔軟できめ細やかな学習支援、生活支援、進路支援等を推進する。

中期計画

年度計画

業務実績（計画の進捗状況）

自己評価

自己評価と異なる
評価委員会の評価
とその理由

添付資料
番号

〔回答〕 ※前頁より

全相談件数は5年度470件→6年度381件、合理的配慮は5年度3件→6年度3件と増えてはいないが、新キャンパスでの相談室のレイアウトを分かりやすく利用しやすい雰囲気にしたほか、ガイダンスでの周知強化と予約の空きが確認できる掲示の工夫などに取り組んだ。
 また、相談室、相談者、専攻教員の三者間の、必要に応じた適切な連絡と情報共有を図った。

外部の相談窓口の運用は次年度からであるが、金沢市へ必要性を説明し、新たに予算措置（交付金）をいただいたこと、相談体制の根本的な変更のため審議会（ハラスメント担当、学生支援担当）、事務局、臨床心理士による慎重な協議と、業者を交えた打ち合わせを多く行った。体制の新たな構築という意味で今年度に挙げた。実際の運用の成果・課題は次年度（R7）以降、検証していく。新たに学外機関の相談窓口の実現への道筋をつけたことは、相談体制の一層の強化につながることからⅣ評価とした。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (4) 入学者選抜に関する目標

中期目標 入学者受入方針を不断に検証し、これに基づいた適切な方法により入学者選抜を実施するとともに、学生募集に関する広報活動を積極的かつ計画的に行う。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号
(7) 入学試験と入学者受入方針の整合性がとれていることを確認するとともに、入学者選抜の結果を総合的に検証し、必要に応じて適切な改善を行う。 〔質問・意見等〕 入試における不適切な対応があったが、評価をⅢ（年度計画を十分に実施している）とすることは妥当か。自己評価をⅢとした理由をより具体的に説明してほしい。	(イ) 入学試験委員会において、入学者選抜の結果の総合的な検証を行い、必要に応じて入学試験の改善に取り組む。 ➡〔次頁へ〕	○入試委員会において、一般選抜の出願・入学状況や他大学との日程重複等を分析し、中期日程を採用することを決定した。なお、他大学の入試日程、出願状況等の調査・分析については継続して行った。 ○学校推薦型選抜の志願者数は全体では微減となった。 ○一般選抜の志願者数は大学全体として昨年並みとなったが、志願者の出身地域によって傾向が異なり、専攻によっても増減に相違があるため、今後も経過を注視していく。 ○6年度は、現キャンパスで2回目の入試となったため、昨年の経験を踏まえ、控え室と試験室間の動線、昼食場所を専攻ごとに確認した。 ○地震等の災害発生時の対策や避難誘導経路についても事前に手順をまとめ、入学試験委員を通じて専攻ごとに確認と準備を行った。 ○なお、ホリスティックデザイン専攻一般選抜において、試験監督間の意思疎通に関して、用具の禁止を技法の禁止と捉えたこと、この禁止の注意を個別ではなくマイクアナウンスにより試験終盤に行ったことという不適切な対応があり、お詫びを掲載することになった。採点評価に関しては公正に行っているものの、令和8年度入試に向けて再発防止及び改善策を令和7年度に全学的に検討していく。	Ⅲ		44

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
(4) 入学者選抜に関する目標

中期目標

入学者受入方針を不断に検証し、これに基づいた適切な方法により入学者選抜を実施するとともに、学生募集に関する広報活動を積極的かつ計画的に行う。

中期計画

年度計画

業務実績（計画の進捗状況）

自己評価

自己評価と異なる
評価委員会の評価
とその理由

添付資料
番号

〔回答〕

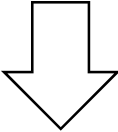
今回の色彩構成の採点評価も、昨年度までと同様、学生募集要項に記載のある「採点評価基準(※)」に基づく総合的な評価を行っており、結果的に禁止となったスパッタリングを始めとする各種の技法の有無は採点評価に影響していません。従って今回も採点評価そのものは公正に実施しているため、Ⅲ評価とした。

(※) 提示されたテーマに対して理解し、独創的な発想をする力。構成力と色彩感覚を表現する力

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究内容等に関する目標

中期目標

芸術分野における高度で多様な調査・研究を推進するとともに、大学の特色ある研究活動の成果を広く国内外に発信する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号
(イ) 金沢をはじめとする地域文化について、工芸の継承と発展など本学独自の視点による調査・研究に取り組む。	(ウ) 珠洲市など近隣自治体との連携協定に基づいて、地域の特性や文化を踏まえた研究活動を継続的に行う。	○ふるさとCM大賞に、志賀町職員と協力して、映像コースの学生と教員が能登の魅力を伝える映像を制作した。 ○能登半島地震後も奥能登・珠洲に対する歴史的・文化的な理解を深めるためスズプロとしての活動は形を変えて継続的に行われている。具体的には、能登半島地震からの復興に向け、街頭募金を行い、募金の協力者に能登の風景を描いたオリジナルポストカードを贈る活動や、高等学校と連携し、避難されている方からお話をお聞きして絵本などを制作するワークショップを行った。	IV		49-1 49-2
〔質問・意見等〕 なぜ評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR6年度に拡充した部分など)を具体的に説明してほしい。 ふるさとCM大賞に取り組む経緯や意義を説明してほしい。		 〔次頁へ〕			

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
（1）研究内容等に関する目標

中期目標

芸術分野における高度で多様な調査・研究を推進するとともに、大学の特色ある研究活動の成果を広く国内外に発信する。

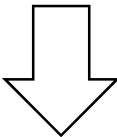
〔回答〕 ※前頁より

奥能登国際芸術祭の開催見送りが決定した後も、活動を止めることなく、教員・学生が自らできることに取り組んだ。

例えば志賀町との連携協定に基づき、新たにふるさとCM大賞撮影に協力することとし、撮影時には、現地まで行って学生も撮影し、学生自身も震災の爪痕などを感じながら、主体的に取り組む制作を行った。

スズプロについても、復興に向けて学生、教員が自主的に街頭募金活動、ポストカードを募金協力者に贈る活動などを行うなど、例年以上に主体的に学生、教員が能登復興を願いながら自身の研究活動を行ったことを評価した。

社会との連携に関する目標	
中期目標	社会連携事業(地域連携・産学連携)を推進し、教育研究の成果を積極的に社会に還元するとともに、地域の文化と産業の発展に貢献する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号
(ア) 歴史文化都市として、様々な地域資源を有する金沢市に加え、珠洲市をはじめとする他の自治体との連携を通して、教育研究成果を社会に還元することにより、地域文化の発展に貢献する。 〔質問・意見等〕 なぜ評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR6年度に拡充した部分など)を「支援内容」を重点にして、具体的に説明してほしい。 	(ウ) 能登地域の自治体等と連携した教員や学生の活動を支援する。 〔次頁へ〕	○ふるさとCM大賞に、志賀町職員と協力して、映像コースの学生と教員が能登の魅力を伝える映像を制作した。 ○能登半島地震後も奥能登・珠洲に対する歴史的・文化的な理解を深めるためスズプロとしての活動は形を変えて継続的に行われている。具体的には、能登半島地震からの復興に向け、街頭募金を行い、募金の協力者に能登の風景を描いたオリジナルポストカードを贈る活動や、高等学校と連携し、避難されている方からお話をお聞きして絵本などを制作するワークショップを行った。 ○輪島市図書館に旧キャンパス図書館の書架を寄贈した。 ○8月、学生の部活である「ワークショップ部ちきゅう」のメンバーと教員が金沢大学との連携により石川県立図書館にて「のと もっと！あっとけんとしょ！ー七夕に能登への思いをー」を実施した。旧暦の七夕の日に、能登をイメージして制作したオリジナル短冊、パズルで能登のことをもっと知ってもらうなどの企画を実施した。当日は能登復興支援の募金活動を行い、集まった義援金は石川県立図書館を通して日本赤十字社石川支部に届けた。 ○3月には、金沢大学と共催で、のと里山空港に出向いて能登の中学生・高校生を対象にデッサン交流会を開催した。	IV		49-1 49-2 64-1 64-2 64-3 64-4 64-5 64-6 64-7

社会との連携に関する目標

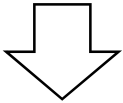
中期目標	社会連携事業(地域連携・産学連携)を推進し、教育研究の成果を積極的に社会に還元するとともに、地域の文化と産業の発展に貢献する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号
------	------	---------------	------	-------------------------------	------------

〔回答〕 新たに金沢大学と連携して2つのプロジェクトを行った。 8月は石川県立図書館に協力して、旧暦の七夕の日に能登をイメージした短冊、パズルなどで、能登について知ってもらい、金沢市内に避難している子どもたちへの広報などもおこない、募金活動を実施した。 3月は、のと里山空港に出向いて、能登地区の中学生、高校生を対象にデッサン交流会を開催することで、対象を見ることで癒やされる効果や学生とのコミュニケーションが生まれた。 2つのプロジェクトを通して、美術(アート)ができる、目には見えない内面的な効果が生まれていることは、例年にはない新たな効果を生み出している積極的な取り組みである。 初めての事業を実施するにあたり、金沢大学と本学では規模や得意とする分野等が異なるため、教員は様々な面での調整を行いながら、さらに、材料の調達のため本学の過去のイベントの余りを使用するなど、工夫を重ねて能登への貢献を行おうとする学生の活動を支援したことからⅣ評価とした。					

その他業務運営に関する重要目標 5 人権擁護及び法令遵守に関する目標

中期目標	人権尊重、知的財産保護、研究倫理、法令遵守に関する意識向上とその徹底を図るとともに、各種ハラスメントの防止に向けた取り組みを推進する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号
(7) 教職員の倫理意識の啓発や人権侵害等の防止を図るための研修等を実施する。 〔質問・意見等〕 なぜ評価がⅣなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR6年度に拡充した部分など)具体的に説明してほしい。 SNSガイドラインを制定することと、年度計画であるキャンパスハラスメントの改善の関連について具体的に説明してほしい。 ○2番目の文章については、令和7年度の実績報告で記載する内容ではないか。	(イ) キャンパスハラスメントガイドラインを検証し、改善を図るとともに、教職員及び学生への周知を徹底する。	○ガイドラインにおける学生相談室の機能に関して、実態に即して「通知」と「調整」機能を明記した。 ○メンタルケア及びハラスメントの一次相談窓口としては、これまで学内の学生相談室のみであったが、相談数の増加や内容の多様化に対応するために学外専門機関の窓口を導入することを検討し、次年度より運用することとなった。 ○学生と教職員がソーシャルメディア（SNS）を安全・適正に利用し、正しい情報を発信するため、特に大学の学務のために教員と学生が緊急連絡手段としてグループで使用する場合のルールを明確化した大学としてのガイドラインを新たに制定した。  〔次頁へ〕	Ⅳ		33 123-1 123-2 123-3

その他業務運営に関する重要目標
5 人権擁護及び法令遵守に関する目標

中期目標

人権尊重、知的財産保護、研究倫理、法令遵守に関する意識向上とその徹底を図るとともに、各種ハラスメントの防止に向けた取り組みを推進する。

中期計画

年度計画

業務実績（計画の進捗状況）

自己評価

自己評価と異なる
評価委員会の評価
とその理由

添付資料
番号

〔回答〕

実際には行っていた「通知」と「調整」機能をキャンパスハラスメントガイドラインに明記したことにより相談に対する学生の心理的ハードルを下げた。

教員と学生を含むグループLINEにおいて、休日や夜間の連絡・指導など善意からであっても受け手によっては圧力と受け取られかねない事例を踏まえ、ハラスメントの温床とならないようSNSガイドラインの制定と周知を行った。

外部相談窓口の運用は次年度からであるが、金沢市へ必要性を説明し、新たに予算措置（交付金）をいただいたこと、相談体制の根本的な変更のため審議会（ハラスメント担当、学生支援担当）、事務局、臨床心理士による慎重な協議と、業者を交えた打ち合わせを多く行った。体制の新たな構築という意味で今年度に挙げた。実際の運用の成果・課題は次年度（R7）以降、検証していく。学外機関の相談窓口の実現への道筋をつけたことは、SNSガイドライン制定とあわせ、ハラスメント対策における新たな取り組みであるためⅣ評価とした。